

# 銚子ジオパーク市民の会 ニュース

第117号

2022年4月7日発行

発行責任者 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshigeopark.com>



屏風ヶ浦 (銚子市)

## ジオパークにジオグラフィのジオを！ ―千葉地理学会講演報告―

安藤 清

1月30日(日)、千葉地理学会研究発表大会(オンライン)において、銚子ジオパークを紹介する機会がありました。

千葉地理学会は、千葉大学地理学教室を事務局として1960年に設立された研究と教育に関する組織です。現在、県内外に約100名の会員がおり、研究発表大会のほか、国内及び海外での巡検、学会誌「房総研究」の発行、地理関係出版物の刊行などの活動を行っています。2020年1月にはジオパーク見学も含めて銚子巡検が実施されました。さて、今回の講演内容としては、銚子ジオパークの軌跡をたどった上で活動の成果と課題を整理し、その魅力と可能性を探ることを目指しました。ジオパーク活動に関わってからの浅い自分にはわからないことばかりでしたので、あち

1月30日(日)、千葉地理学会研究発表大会(オンライン) はこちらから資料や情報の提供をいただきました。工藤忠男、茂木事務局長をはじめとする銚子ジオパーク市民の会の方々からいろいろなお話を伺いましたし、房州会員からは初期の活動がわかるたくさんの方の資料を見せていただきました。ほかにも例えば、ジオパーク菓子の企画については銚子商工会議所や菓子店で、学習支

### 銚子ジオパークとそれを支える組織及び活動について

安藤 清 (千葉県入会)



援活動について は市内の小学校で、それぞれ興味深い話を聞かせていただきました。当日は、学会の参加者から多くの意見や感想が寄せられ、関心の高さを感じました。市民の会からも何人も参加があり、銚子ジオパーク推進協議会事務局の岩本専門員や市民の会の小玉副会長からは、寄せられた質問についてコメントをいただくことができ、本当に有意義な時間となりました。地理学では、自然的人文的事象間のつながりをとらえることを方法論の一つとしています。ジオパークのジオは、ジオグラフィ(地理学)のジオでもありたいという学会メンバーからの提言は、本学会活動の視野の中に銚子ジオパークが位置づけられたことを示すようでも印象的でした。最後になりましたが、多くのご教示をくださった方々にこの場を借りてあらためて感謝申し上げます。

## 春の野鳥 in 銚子ジオパークの森

新型コロナの蔓延防止措置が解除され、いよいよ春の自然の中に身を晒して気分転換をしたくなる。銚子にはまだまだ一般的に知られていないお宝があり、その一つが銚子半島東部にある君ヶ浜の後背地、国有林エリア「銚子ジオパークの森」である。銚子は日本列島の真ん中に位置し、しかも海に突き出ており、渡り鳥にとっては都合の良い中継地。春になるとたくさん訪れる。バードウォッチャーには銚子は穴場であり、首都圏からも遙々とやって来られる。よく見られる春の野鳥は、ウグイス、オオルリ、コマドリ(これらは日本三鳴鳥)、ヒレンジャク、キレンジャク、ジョウビタキ、キビタキなどがある。また、近年めずらしい鳥として、キバラガラが

春になるとたくさん訪れる。バードウォッチャーには銚子は穴場であり、首都圏からも遙々とやって来られる。よく見られる春の野鳥は、ウグイス、オオルリ、コマドリ(これらは日本三鳴鳥)、ヒレンジャク、キレンジャク、ジョウビタキ、キビタキなどがある。また、近年めずらしい鳥として、キバラガラが

昨年見られた。中国大陸に生息しているが、冬から春にかけて迷鳥として日本列島にも訪れる。また、ヤツガシラが昨年見られ、多くの野鳥写真家たちが集まった。長い喙と冠羽が特徴で、広げた冠羽は見事でマニアには人気。春の晴れた日の朝に双眼鏡、カメラを持ってバードウォッチングがてらジオパークの森を散歩してみれば、きっと森の中の鳥たちの囀りが迎えてくれるだろう。(ニュース編集部)



ヤツガシラ (体長約25cm)



キバラガラ (体長約10cm)